

## いわき農林事務所ニュース

2008年 4月号



### ◎活動状況

- ・ [集落は営農（ええの〜う）セミナー開催](#)
- ・ [県産木材利用推進いわき地方連絡会議開催](#)
- ・ [いわき地方水田活用園芸機械化研修会開催](#)
- ・ [農業・食品産業連携推進協議会開催](#)
- ・ [鳥獣被害防止対策研修会開催](#)
- ・ [いわき地方環境と共生する農業推進会議開催](#)
- ・ [ふくしま21園芸特産いわき地方推進本部会議開催](#)
- ・ [「ふくしま食と農の絆づくり運動いわき地方推進本部会議」開催](#)

### ◎トピックス

- ・ [木質バイオマス利活用地域モデル実践事業成果報告会開催](#)

## 活動状況

### ○集落は営農（ええの〜う）セミナーを開催しました

3月4日（火）、「グリーンプラザいわき」において、平成19年度ステップアップ講座「集落は営農（ええの〜う）セミナー」を開催しました。

集落営農組織、農産物加工組織、認定農業者等、約60名が参加し、株式会社ブランド総合研究所代表取締役の田中章雄氏を講師に、集落の地域資源を有効に活用し、直売、加工、農家レストランや、観光産業等との連携などの新たな活動を支援するための地域ブランド、ブランド商品づくりの取り組みについて研修しました。

作り手のこだわり、地域のこだわり、をいかに消費者に伝えブランド化するかについての、他県の先進事例を豊富に織り交ぜた講演に、参加者は多くのヒントをつかんだようでした。

講演終了後も、サンシャインいわき梨のコンポート、遠野町のウメ・ユズのブランド化などについて多くの質問があったほか、具体的な課題について講師に相談する参加者が多く見られました。



講演の様子

### ○県産木材利用推進いわき地方連絡会議を開催しました

3月11日（火）、いわき合同庁舎西分庁舎で、「県産木材利用推進いわき地方連絡会議」を開催しました。

当会議は、いわき管内における公共建築物及び公共土木事業における県産木材の利用を促進するために開催しており、磐城森林管理署、県、いわき市から14名参加しました。

会議では、「（新）ふくしま県産木材利用推進計画」の概要説明や、各行政機関における県産木材の利用状況、利用計画について報告を行いました。

その後、いわき建設事務所発注の四倉町にある「県営梅ヶ丘団地」において、住宅建築現場を視察しました。当住宅は、柱などの主要構造材や天井板に三和産のスギを積極的に利用しており、1棟当たり約25m<sup>3</sup>のスギ材を使用しています。また、梁は「あらかし」構造となっており、参加者は木の温もりを実感しました。



「あらかし構造」の梁

## ○いわき地方水田活用園芸機械化研修会を開催しました

3月12日（水）、パレスいわやにおいて、いわき地方水田活用園芸機械化研修会を開催しました。

いわき地方は、温暖な気候と全国でも有数の秋冬の日照に恵まれ園芸作物に適した産地ですが、担い手の高齢化等により労力不足が進んでいます。また、米の需要の減少により、水田を活用した園芸作物栽培による農家所得の確保に対する期待が高まっています。そこで、最新の園芸作物の機械化による省力化について研修を行いました。

イチゴ、ネギ等の園芸作物の担い手や、認定農業者、農機具販売店等、約70名が参加しました。

「園芸機械化の最前線」と題して、ネギの自動調製機の開発者として有名な、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構主任研究員の大森定夫氏が、ネギの収穫機、自動調製機、イチゴの収穫機、パック詰め機等の最新の機械開発の途中経過や成果について講演しました。

また、当所より「ふくしま水田農業改革実践プログラムについて」、JAいわき市農機センター係長の戸田久典氏より「おすすめ園芸用農業機械」について発表を行いました。

参加者からは、イチゴやネギでこんなに機械化の研究が進んでいるとは思わなかった、実用化されたら使ってみたい、などの意見が寄せられ、園芸の機械化による省力化や規模拡大に明るい未来を感じたようでした。



研修会の様子

## ○農業・食品産業連携推進協議会を開催しました

3月18日(火)、グリーンプラザいわきにおいて、農業食品産業連携推進協議会を開催しました。いわき市、JAいわき市、梨生産者、食品加工業者、実需者が集まり、農業・食品産業連携推進事業で新たに開発した日本梨のコンポート(白ワイン煮)の今後の生産流通販売戦略について協議しました。

事務局から、消費者のアンケート結果では、梨とコンポートの詰め合わせセットが、お土産品としての人気があったことや、お菓子やデザート素材としても好評であったことが報告されました。

加工業者からは、カットの仕方や、ワインの種類を替えた3種類ぐらいを作ってはどうかとの提案がでるなど、よりよい商品づくりに向けて意見が交換されました。

試作、試験販売により改良を続けて、将来的にいわきの特産品をめざしていくことが合意されました。

## ○鳥獣被害防止対策研修会を開催しました

3月19日(水)、県いわき合同庁舎において鳥獣被害防止対策研修会を開催しました。関係機関団体の担当者11名が参加し、県農業総合センターの大槻晃太主任研究員の「イノシシとハクビシンによる被害対策」との講義では、イノシシは20cmのすきまがあれば潜れるため、電気柵の下段ワイヤーを20cm以下にすることが必要、などの具体的な内容について研修しました。

いわき地方では特にイノシシの被害が多く、農家からの相談が各機関に多く寄せられており、各機関の担当者は真剣に研修に取り組んでいました。

## ○いわき地方環境と共生する農業推進会議を開催しました

3月25日(火)、農業関係機関団体等が参加し、いわき合同庁舎で、県いわき地方環境と共生する農業推進会議を開催しました。この会議は、これまで、たい肥等の有機性資源の有効活用推進を中心に、開催してきた、いわき地方資源循環型農業推進会議に代わって、有機栽培、特別栽培の振興等も含めた、より広く環境と共生する農業を推進する会議として、新たに設置されたものです。

まず、「有機栽培のこれまでの取り組みと展望について」と題して、富岡町の有機栽培農家の渡辺伸(のぼる)氏が、アイガモを活用した水稻の有機栽培について事例発表しました。

次に、有機栽培、特別栽培、エコファーマーの推進方策について協議しました。

厳しい経済環境のもとで、特別栽培等についても高い付加価値をつけることが難しくなっているものの、県民・消費者の食の安全安心や環境保全に対する意識が高まっているなかで、関係機関が連携して推進していくことを確認しました。

## ○ふくしま21園芸特産いわき地方推進本部会議を開催しました

3月25日(火)、県いわき合同庁舎で、ふくしま21園芸特産いわき地方推進本部会議を開催しました。

ふくしま食・農再生戦略に基づく園芸産地戦略と園芸特産産地強化プログラム対象品目のイチゴ、ブロッコリー、ネギ、アスパラガス等の実績を検討しました。

園芸作物についても、担い手の高齢化等の課題があるものの、いわき市の「いわき営農塾」による、イチゴの新規就農者確保の取り組みや、イチゴの県オリジナル新品種「ふくはる香」が低温での生育が良く、原油高騰に対応できるなどの明るい話題もあり、関係者は、園芸振興への決意を新たにしていました。



## ○「ふくしま食と農の絆づくり運動いわき地方推進本部会議」を開催しました

3月26日（水）、県いわき合同庁舎で「ふくしま食と農の絆づくり運動いわき地方推進本部会議」が開催されました。

会議では、いわき農林事務所本田所長の挨拶の後議事に移り、いわき地方における「ふくしま食と農の絆づくり運動」の推進に向けた主な取り組みの進捗状況と特徴的な取り組み事例や平成20年度の取り組み内容について審議がなされました。

今後の課題としまして、「県産農産物の数量が少ないので、もっと作って欲しい。」等の意見がだされ、更なる運動の展開が望まれます



会議の様子

## トピックス

## ○木質バイオマス利活用地域モデル実践事業成果報告会が開催されました

3月18日（火）、社団法人全国木材組合連合会主催、林野庁後援により「木質バイオマス利活用地域モデル実践事業成果報告会」が、いわき市内郷御厩町の報徳苑で開催されました。

当事業は、平成19年度の林野庁補助事業で、全国4地域を選定し、実施されたものです。福島県ではいわき市の遠野興産株式会社が事業採択を受け、林地残材などの未利用木質バイオマス利活用の成果報告が行われ、県内外から約60人が参加しました。

報告会では、まず、遠野興産（株）代表取締役の中野氏より、市内3カ所で実施した林地残材収集の収支結果報告がなされ、続いて、遠野興産（株）で実施した布製エアシューター（スカイウッドシューター）による集材システムについて、考案者の岐阜県森林アカデミーの松本氏より説明いただきました。最後に、（社）全国木材組合連合会の藤原氏より、ほかの3地区の実施状況について報告いただきました。いわき市はバイオマスエネルギービジョンを策定するなど木質バイオマスの利活用に関心が高く、実り多い報告会となりました。



成果報告する遠野興産（株）中野氏と熱心に聴講する参加者

◀ もどる

すすむ ▶

[ [▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#) ]